

祈願いたしました。續いて別宮、
外宮參拜、宿に歸りて朝食をせり
九時二十分電車にて、微古館農業
館に至りて參觀。我國古代の服裝

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總統和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

行發日一回一月
 郵政特准掛號認許
 新聞紙類
 内郷村報社
 編集長 大内民惠
 印刷所 天民印刷所
 電話 八四二〇
 代印所 平野町一丁目三九
 電話 八四二〇
 代印所 平野町一丁目三九
 電話 八四二〇

教育家の五臟六腑

大内民惠

本年も例によつて、全國一齊に小學教員の移動が行はれ、本縣下に於ても其數昨年比して、百八十八を減じたといふも、尙且つ總員實に千五十七を算するといふ有様である。もとより新陳代謝は天の法則で人事上に在つても當然な事であるから、別に異論はないのであるが、常例の此移動は、縣下五千六百の小學教員の運命を清算するものであつて、彼等は日常其仕事をするに際して、一年一回行はるゝ其清算期に於て罷免を逃れ、現位を維持するは勿論の事、増俸、昇格榮轉等を、如何にかち得べきかについて、心身を悩まして居るのである。苟も陛下の赤子をお預りして責任を以て立派な國民を育成すべき、尊き使命を荷ふて居る事などは、殆ど考へる餘裕も、殊勝さもない。

く、たゞ人から認められやう、大向ふの喝采を博さうとのみ苦心して居るのである。教案も立派につくり、教授も上手にやり、運動會に、學藝會に其手際を見せびらかし、特に上級學校の入学には、何を措ても一段と力を入れる。茲に於て父兄も有力家も、あの先生は！あの校長は！となり、又其先生も校長も、こゝぞとばかり、縦に横に算盤珠をばらばらして、清算期の利益配當否

音到來を待つといふ状態である。但し其は其學級受持中、其學校在任中に限られてあつて、一度受持や學校が換れば、前受持の児童や、前任の學校などは史に念頭を去つて、新受持、新任學校に於て、相變らず算盤珠をはじき始めるのである。斯の如くにして二十年三十年、上手にはじ

いて來た連中が、叙位叙勳となり、
 奏 任待遇ともなるのである。勿論少數の例外ある事は之を認める。同時に甘くはじけなかつた者は、四十をこゝろで老朽扱にされ、若干の恩給にありついで、先生あがりではと、世間の一部からは、冷笑されつゝも、何ぞ再び生計の道を講ぜざるを得ざらしめらるゝのである。又悪い意味に於て感慨があり、つまり生意氣で淺薄な思想の所有者は、其前途の行き詰りを見越して

赤い方面に蠢動を開始する向なども、近頃追々と現れて、國家に殃して居るのである。
 以上をたゞ是れ、教員といふ一職業として見る段になれば、自動車と人力車の盛衰を語ると同一の問題であるが、事苟も

其際を重んずる處から、もし不良品があつたら取換もするのである。然るに今日の學校は、卒業證書さへ出せば、もう
 責任解除である。子弟の關係などは昔の事、師は弟を、弟は師を、思ふなど云ふ事は稀有に屬して居る。然し伴に其學校から、多數上級學校に入學したとか、偶々偉い人材でも出たりすると、之れ見よがしに、賣藥の廣告か、東京あたりの學校屋の廣告の如くに吹聴する。又之と反對に出身者中から、犯罪者を出しても知らぬ顔で、罪を社會に負はせて居るのである。要するに今日のあらゆる學校は、智識技能の切賣所で、其無責任なる事、商店や會社の比ではないのである。記者などはかうした見地から、我子女に對する人として國民としての教養について、絶對に

國に聯關するが故に、彼岸の火災視する譯には行かぬのである。前例に於て、先生方の生活の具、算盤の珠に使用せらるゝ子弟こそ父兄こそ、將た國家こそ、一大迷惑であらねばならぬ菓子屋で賣り出す菓子の良否は、其店で責任を負ひ、

學 校を信頼せず、身自ら範を示しつゝ苦心して之にあたつて居るといふ状態である。要するにかゝる現狀を招來するに到つたのは、畢竟國民の無自覺、爲政者の無能、

育制度の缺陷等から生じたものであると思

はるゝが（拙著教育制度改革概論参照）記者は此際特に一般國民の覺醒を促すと同時に、身苟くも教育者を以て任する者は、自己の使命の那邊にあるかを念頭に置いて、其缺陷は幾分でも之を補ふとともに、かゝる制度を改革する端緒をつくる責任を有するものではあるまいかと、痛切に考へらるゝのである。記者が以上に列擧した觀察が、決して荒唐不稽の言ではない事を證する爲に、こゝに一の適例を擧げて置かうと思ふ。それは此度の移動で

某地の縣下最大の
 中 學校長が、某縣某師範保護者全体に挨拶状をくばつたのであるが、之を受取つた心ある保護者は何れも然たらざるを得なかつたのである。

先づ冒頭に轉任の由來を述べ、微力短才期待に副はなかつた事が多々あつたと思ふが、眞面目に自己の本分に努力し、品位を持つ中堅人士を養成したいと考へた事、學校と家庭との聯絡をせり、其後接を乞ふ爲に保護者會を設け、お蔭で横木、弓道場、庭球の網、雨傘六百本、圖書買入れ、園藝木工の設備が出来、先生方の視察研究の便もはかられた事や、篤志獎學會を設け、貧困學生延入員七十余名

（以下二面につづく）

（以下二面につづく）

國家の前途を悲觀せざるを得ない心ある人は、一度又は此動物園を見て、郷土の選良を出す參考とする事は、急務中の急務である。痛切に考へさせられた。（後略）

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

内郷村學事壇報

矢野 恒太序 大内民惠著
服部宇之吉
教育制度改革概論
(四六版二一頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に違あらす。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年御體験下實地ノ御試練ニ基テ眞學愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル
取次所 内郷村報社

本村内各種學校では、三月二十四五兩日に涉つて、例年の通り卒業證書授與式を舉行したが、今其學事の要項を一括して左に之を掲ぐ。

尋常高等校 (高坂)

在籍、一〇九二。修業生、九一五
卒業生、一七〇。優等賞、二二七
進歩賞、二六。精勤賞、五〇。一
六ヶ年精勤賞、一七。部會賞、三
名。添田將齋藤彦藏土屋シツ
新入學生、二一八。

高等科

在籍、七二五。修業生、三九六。
卒業生、三二八。優等賞、一五四
進歩賞、二〇。精勤賞、二七六。
八ヶ年精勤賞、二。部會賞、五
名。鈴木金男渡邊恭助山崎傳工藤
房子長塚キミヨ
新入學生、四八二。

中等學校入學者

中學、小柳幸男、遠藤幸春、青木
久、高原四郎、但野富男、白田稔
根本勇、山田二郎
商業、皆川正己、宮本正明、四倉
健、木舟敏伸、神田豊、添田將
草野耕治、廣木豊、柴山藩、
高女、關ハナ、杉原央子、海川は
るよ、草野はつ子、土屋シヅ、沼
田秋子、木田艶子、鈴木幸子、馬
目ケニ。
受檢者、尋常科、十四名中十三名
合格。高等科、二十五名中十三名
合格。受持訓導、志賀爲彦三瓶道
夫菱沼貞子
教員移動、轉出、訓導菅野清四郎
郡山第三、同志爲彦彦川部、
同菅野傳安達川崎へ。轉入、訓導

第一校 (御殿)

在籍、四二五。修業生、三五八。
卒業生、六七。優等賞、九九。進
歩賞、八。精勤賞、一五一。六ヶ
年精勤賞、六。部會賞、一名。吉
田豊司
新入學生、六五。

第二校 (内町)

在籍、一三〇。修業生、一一〇
四。卒業生、一九四。再修生、三
優等賞、三〇。進歩賞、四三。
精勤賞、六三。六ヶ年精勤賞、
二九。部會賞、三名。佐藤信一鈴
木信一福場靜江。
新入學生、二四五。

第三校 (宮)

在籍、一五三〇。修業生、一三三
七。卒業生、二二三。優等賞、二
六二。精勤賞、七五五。六ヶ年精
勤賞、二八。部會賞、三名。松崎
一吉江連了兒泉已代治。
新入學生、二八二。

第四校 (内町)

在籍、六一。修業生、三一。卒業
生、三〇。優等賞、二。精勤賞、八
名。長岡正則大浦より、准訓導大
橋眞勝本村第一より。
教員移動、校長仲村辰四郎退職、
轉出、訓導菱沼儀平第三へ、轉入
校長長岡正則大浦より、准訓導大
橋眞勝本村第一より。

公民學校

在籍、六一。修業生、三一。卒業
生、三〇。優等賞、二。精勤賞、八
名。長岡正則大浦より、准訓導大
橋眞勝本村第一より。
教員移動、校長仲村辰四郎退職、
轉出、訓導菱沼儀平第三へ、轉入
校長長岡正則大浦より、准訓導大
橋眞勝本村第一より。

家政女學校

在籍、九五。修業生、五八。卒業
生、三七。優等賞、一八。精勤賞
二〇。二ヶ年精勤賞、七。
新入生、五五。

重要事項摘錄

野翁紀念館全部竣工。
五月七日開館式舉行。
島下組協力實行組合は
新進氣鋭の青年が各部
の幹部となり、五ヶ年計畫
で、農業經營を合理化し、
理想郷實現の意氣組。
重雄君は、郡聯合青年
團第二回雄辨大會で、
第三等に入賞。
根磐炭青年會支部定期
總會は、四月四日宮小
學校に開催。頗る盛會。
慰靈祭 三月二十七日瑞
坑火災殉難百三十二靈の爲
盛大に嚴肅に、七年忌慰靈
祭舉行。
山神祭 四月十四十五の
兩日、宮、高坂

急告

三月二十九日附御手紙の趣
正に拜承調査の結果當時混
雑に紛れ手續きが後れて居
る中に拾主氏名失念今日に
到り目下頻りに捜査中の由
私が一切を引き受けてあり
ますから恐入るが御來訪下
さいませんか (大内)

觀櫻會

磐炭役付聯合の
同會は、四月十
六日平松ヶ岡公園に開催。
濱崎部長、花はまただが、
物云ふ花はかくの通りと、
紅裙連を紹介。總員三百余
名、小島課長石橋田中猪狩
各主任の氣のきいた幹旋で
表懸あらゆる藝當を演じて
全員歡を盡す。

歡送迎會

退職したる仲
村第三校長、
新任同柴田校長、磐崎第二
校長に榮轉した高木憲平氏
郡山第三に榮轉した菅野清

麥笛吟社

もの芽にまきれて育つ芽獨活哉
涉り石みな沈み居り春の川 關本 雲浦
鶯こめてゆるき流れや春の川 志賀野齋司
笛吹いて田樂賣の來りけり 石川 六華
傘さして獨活を掘りある女哉 坂本 野風
田樂の串までこけてしまひけり 渡邊 蘇民
口元で豆腐田樂落ちにけり 原 ひでた
春の川折々渦のおこりけり 濱崎 冬至
水切りをしてゐたりけり 南波 白眠
轆りの山を来て来る本橋かな 渡邊丹 蕪子
轆りや昔ながらの心光寺 關本 不味男
高木 撫山

を吹聴した事になり、三月
の問題の如きは、之は全く
責任回避で、自分には部下
を以て退職閑地についた。
其述懐に曰く
今日よりはわれ浪人の花見哉

三日一家を擧げて上京した
渡邊久雄氏。多年平區裁
判所に在勤令名あつたが同
氏は、島地方裁判所に榮轉
金壹圓 福島 波邊 久男
金五十錢 宮 岩崎 義美
金壹圓 同 松本 大

